

旧中山道の宿場町の佇まい を体感できる観光地

住民による「町並み保存運動」によって維持されている「江戸時代の旧宿場町の佇まい」といった魅力を活かし、台湾や中国を中心とした海外旅行エージェントの招聘等に取り組み、平成18年には平成14年の約13倍の外国人が宿泊し、約9万人(推計)の外国人団体客が来訪。



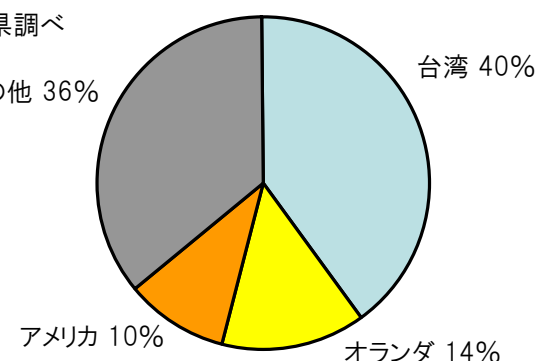
中国教育関係者による視察(妻籠宿)

外国人宿泊者延数(南木曾町)

平成14年(2002)	300人
平成15年(2003)	1,000人
平成16年(2004)	データなし
平成17年(2005)	1,700人
平成18年(2006)	4,000人

長野県調べ

その他 36%



魅力

自然

歴史・文化

体験・イベント

まちめぐり・まち景観

江戸時代の面影を残す「宿場町」

江戸時代に、江戸日本橋と京の都を結んでいた中山道。約530kmの街道には69の宿場が置かれていたが、江戸から数えて妻籠宿は42番目、馬籠宿は43番目の宿場町であった。日本の宿場町の風情を伝えるまちとして海外でも認識されており、主に台湾人観光客を中心に、最近では中国からの観光客も増加傾向にある等、外国人観光客が多数訪問。



夕暮れ時の妻籠宿

中山道ハイキング

旧中山道を歩きながら江戸時代の佇まいを体感できる「中山道ハイキング」は、中にはリュックを背負って歩く本格派もいる等、特に欧米系の外国人に人気。

取組

PR・誘致活動

案内・情報提供

景観保全・環境整備

体験・イベント開催

地場産業

海外エージェント等の招聘



(社)信州・長野県観光協会等が主体となって、台湾や中国の旅行エージェントや教育関係者等の招聘を行った結果、ゴールデンルートから立ち寄る東アジアからの外国人観光客や見学に訪れる教育旅行生が増加。(VJC地方連携)

中国からの教育関係者の招聘(妻籠宿)

町並み保存運動

妻籠では、江戸時代の貴重な町並みを後世に残すため、「売らない・貸さない・壊さない」の3原則のもと、住民が保存運動を継続。また、馬籠では、2度の大火により江戸時代の古い町並みは消失しているが、住民憲章を制定した上で、電柱の移設等の街道修景美化を実施。こうした取り組みにより、現在も江戸時代の旧街道の佇まいを体感できる環境を維持。



馬籠宿の町並み

南木曾町経済観光課 TEL:0264-57-2001 URL:<http://www.nagiso-town.ne.jp/>
 妻籠観光協会 TEL:0264-57-3123
 中津川市観光課 TEL:0573-66-1111 URL:<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/>
 馬籠観光協会 TEL:0264-59-2336